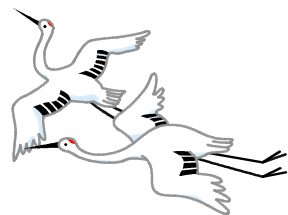


躍

動



全渡島教職員組合

2013年1月5日 第18号

文責：塩田



学校は最後の砦

全渡島教職員組合委員長 橋向 功

国は全国学力テストの結果を公表するという。点数が学力だと私達を競争に追い立て、点数を上げられない教師はダメ教師の烙印を押される。学校は生徒に1点でも多く取らせるための訓練の場となり、点が取れない生徒は「お前の努力が足りないからだ」と教師から尻を叩かれる。教師も査定制度で大変なのだ。そこでは、生徒と教師のあたたかい人間関係など築けるはずもない。

国は道徳を教科にするらしい。憲法を変え、国防軍を作り、アメリカと一緒に戦争ができる国を作るためには、愛国心が必要だそうだ。日の丸や君が代の学校への押しつけも、年々厳しくなる。

ところで、道徳の成績をつけるために教師はテストを作らなければならない。『あなたは国のために死ぬますか？』の問いに『はい』と答えたなら成績は5なのだろうか？

国は教科書検定を強めている。今年の中学校の教科書から従軍慰安婦や南京大虐殺の記述が消えた。高校も各高校で自由に決定できたが、教育委員会より首長に権限を持たせ、国定教科書を強いる方針だ。そのうち、『太平洋戦争はアジアを守るための正義の戦争であった』と書かれた教科書が、大手を振ってまかり通る時代が来るのかもしれない。

国は英語を小学校3年生から始め、5・6年では教科にする。英語を増やす代わりに何を削るのだろう。削らないなら、土曜日を復活させるつもりなのだろうか。大学の卒論を指導する教授が『だである調とですます調の添削から始めなければいけない』とこぼしていた。英語よりも、正しい日本語を使える若者を育てるのが先ではないのか？

国は高校の無償化に所得制限をもうけた。所得が910万円以上ある家庭からは授業料をとる。つまり、一つのクラスの中に授業料を払う者と払わない者が混在することになる。それがいじめや差別の原因になる懸念はないのだろうか。

いつの間にか学校は利潤を追求する会社のように、短期間に結果を出すことを求められるようになった。じっくり、ゆっくり子どもと向き合うことがまるで悪いことであるかのように。PDCAのサイクルは年々早まり、しかもPは文科省。

教師は多忙で疲弊し、焦りと脅迫でさらに拍車をかけられ心を病んでいる。子どもも同様、学校は安心して生活できる場所ではなくなりつつある。イジメや仲間はずれの対象にならないように人間関係を維持しようと必死だ。自分を殺し、口を合わせ、『既読なのに返信しないのは罪だ』という馬鹿げた情報社会に縛られている。波風の立たぬ希薄な友人関係を保つのに神経をすり減らし、子どもたちもまた疲れている。

『そのままがいいんだよ』、『あなたの存在そのものが大事なんだよ』、『弱い自分を見せてもいいんだよ』。そんな言葉が飛び交う学校でありたい。子どもを受けとめ、認め、肯定する。だから教師は癒され、子どもは学校を楽しんでいると感じる。

これから、教師イジメと生徒イジメはもっと激化するだろう。でも、それを跳ね返そう。教育を支配し、日本を六〇年前へ戻そうとする政治家の思惑通りになってしまわないように。

学校は、安全で安心できる最後の砦なのだから。

お知らせ



今後の予定(定期大会関係)

1月10日(金) 函労旗開き

1月17日(金) 支部代・執行委員会 18:00～ 組合事務所

2月12日(火) 執行委員会 18:00 組合事務所

退職者激励と連帯の集い

日時 2014年2月15日(土) 11:30 受付 12:00 集い開始

会費 3,000円

会場 ホテル・テトラ(梁川町17-16)

退職される先生 橋向先生(大沼中) 野村先生(高丘小) 館先生(大中山小)

2月19日(火) 執行委員会 18:00 組合事務所

3月2日(土) 定期大会

3月15日(土) 道教組定期大会

